

大東市埋蔵文化財発掘調査概報

1987年度

1989年3月

大東市教育委員会

序 文

大東市域には、現在50カ所を越える遺跡が分布しますが、残念ながらその内容が判明しているものは、極く僅かにすぎません。しかし、近年、種々の開発が行なわれるようになり、それに伴って発掘調査の機会も飛躍的に増加し、徐々にではありますが、古代の大東市の様子が解明されつつあります。

今回報告いたしますのは、1987年度に実施しました市内各遺跡の発掘調査のうち、北新町遺跡と石切場跡の調査報告であります。北新町遺跡は、1985年の府営住宅建替工事がきっかけとなって新たに発見された遺跡で、遺跡調査会によって大規模な調査が行なわれ、古墳時代から中近世に至る複合遺跡であることが明らかにされました。それに比べますと今回の調査は、僅か8.0×4.5mの小規模なものでありましたが、遺跡の範囲を明らかにするうえで大変有意義なものであったと感じております。石切場跡は、山間部の竜間にあり、古くから石材の切り出し地として知られているところで、特にこの地域では、元和六年（1620）に始まる大阪城修築に関連する刻印の刻み込まれた石が分布しています。

また、今回報告はできませんでしたが、大東市では1987年度において、これ以外にも数多くの発掘調査を実施しました。発掘調査の件数は年々増加の傾向を示しています。しかし、これは言い換えますと、それだけ市域の開発が盛んになってきているということなのです。遺跡も含め、現在残されている自然環境は、かけがえのない我々の財産です。開発と遺跡保存は互いに相容れないものでありますが、将来、住み良い豊かな街づくりのためには避けることのできない問題であります。今後も市民の皆様方の御協力、御援助を得て文化財行政に取り組んで行こうと思っております。

最後になりましたが、本調査に協力をいただいた、神橋口組、佛山本組、大東市下水道部、さらには、指導、助言をいただいた地元の方々、大阪府教育委員会に対して心から御礼申し上げる次第であります。

1989年3月31日

大東市教育委員会

例 言

1. 本書は、大東市教育委員会が1987年度に実施した市内各遺跡の発掘調査のうち、大東市北新町所在の北新町遺跡と同竜間所在の石切場跡の発掘調査概要報告書である。
2. 両遺跡の調査は、大東市教育委員会技師黒田淳を担当者として実施し、石切場跡の分布調査及び試掘調査は大阪府教育委員会文化財保護課技師松岡良憲を担当者として実施した。
3. 調査及び整理の実施にあたっては、調査員石井裕己、補助員大谷聡、岡田幸博、玉本雅己、深沢吉隆、松本哲、山口裕弘、山村俊之諸氏の協力を得た他、大阪府教育委員会松岡良憲、三宅正浩、辻本武諸氏の指導を得た。また、榊樋口組、榊山本組、大東市下水道部からも調査の協力を得た。記して感謝の意を表する次第である。
4. 本書の作成にあたっては、編集を担当者が行い、執筆を担当者の他、一部を調査員石井裕己が分担した。
5. 文末には、付載として、1987年度大東市立歴史民俗資料館事業概要を掲載した。

本文目次

第1章 北新町遺跡の調査	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 遺跡の位置と環境	1
第3節 調査の成果	3
第4節 まとめ	8
第2章 石切場跡の調査	9
第1節 調査に至る経過	9
第2節 遺跡の位置と環境	10
第3節 調査の成果	10
第4節 まとめ	14

本文挿図目次

—北新町遺跡—

1. 周辺の遺跡分布図	1
2. 調査区位置図	2
3. 調査区No.1 北壁土層断面図	3
4. 調査区No.2 東壁土層断面図	4
5. 遺構平面図 (第1遺構面・第2遺構面)	6
(第3遺構面・第4遺構面)	7

—石切場跡—

6. 周辺の遺跡分布図	9
7. 試掘箇所及び調査区位置図	11
8. A調査区平面図	12
9. B調査区西壁土層断面図	12
10. B調査区平面図	13
11. C調査区西壁土層断面図	13
12. C調査区平面図	14
13. 露岩平面図	15・16

本文図版目次

1. 北新町遺跡 調査区No.1 (1)
2. 北新町遺跡 調査区No.1 (2)
3. 北新町遺跡 調査区No.2 (1)
4. 北新町遺跡 調査区No.2 (2)
5. 北新町遺跡 調査区No.2 (3)
6. 石切場跡 A調査区
7. 石切場跡 B調査区
8. 石切場跡 C調査区(1)
9. 石切場跡 C調査区(2)
10. 石切場跡 C調査区(3)

付 載 目 次

昭和62年度 歴史民俗資料館事業概要

- | | |
|-----------------------------|----|
| 文化財普及啓発事業..... | 21 |
| 民俗文化財資料収集..... | 24 |
| 大東市埋蔵文化財周辺地域及び包蔵地届出一覧表..... | 25 |
| 昭和62年度大東市内包蔵地立会調査一覧..... | 26 |
| 昭和62年度大東市包蔵地発掘調査一覧..... | 27 |
| 受贈図書一覧..... | 28 |

第1章 北新町遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

北新町遺跡は、JR片町線四条駅西の西、大東市北新町地内に広がる遺跡である。遺跡は、府営住宅建替工事に先立ち、1985年7月に大阪府教育委員会によって実施した試掘調査によって新たに発見されたもので、これにより本格的に発掘調査を実施することになった。今回の調査は、同遺跡内に於いて1987年4月1日から7月31日、及び同年9月1日から12月31日に行われた大東市下水道管築造工事に伴って実施したものである。

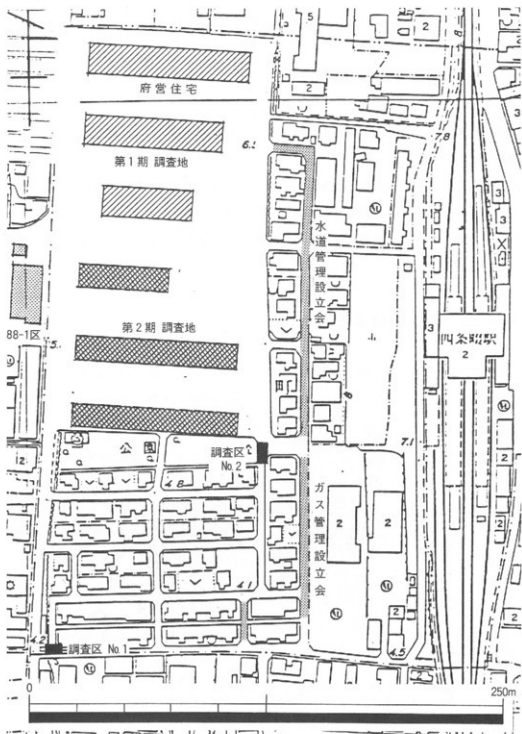
第2節 遺跡の位置と環境

北新町遺跡は、河内平野の北東部に位置している。行政区分では、大東市北新町地内に所在し、現在のところ、遺跡の範囲はJR四条駅西の西側、東西約400m、南北



1. 北新町遺跡
2. 藤谷古墳群
3. 飯盛山城跡
4. 宮谷古墳群
5. 北条古墳
6. 北条南古墳
7. 北条遺跡
8. 北条西遺跡
9. 北条東古墳群
10. 大將軍古墳
11. 野崎城跡
12. 野崎遺跡
13. ヤタ山古墳
14. 三箇遺跡

第1図 周辺の遺跡分布図



第2図 調査区位置図

約300mに広がると推定されている。標高はTP+4～6mを測る。当遺跡は、府営大東四条駅住宅建替え工事に伴い発見された、弥生から鎌倉時代におよぶ複合遺跡である。

河内平野は、縄文中期頃から始まる海進現象に伴って、全域に海水が侵入し河内湾を形成するが、以後、河内潟、河内湖という変遷を経て、近世の大和川付け替え工事により、今の河内平野の姿になる。したがって遺跡は生駒山地西麓の低湿地から丘陵上に立地しているが、北新町遺跡は前者の例として捉えることができる。同じ様に低湿地に立地した遺跡として、弥生前期より始まり、中期の方形周溝墓が検出された雁屋遺跡、弥生前期から古墳時代前期に至る集落跡が検出された中垣内遺跡がある。いずれの遺跡も、湾を利用した水上交通の便と水稲農耕に適した土地を背景に立地したものであろう。東方の丘陵には、墓谷古墳群、城ヶ谷遺跡、宮谷古墳群、北条遺跡など後期古墳が存在し、古墳以外にも弥生時代、中世、近世の遺構が検出されている。

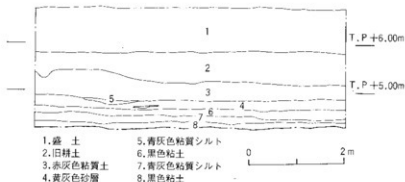
第3節 調査の成果

調査区は、計2回に渡る下水道工事に合わせ、各々立坑1カ所ずつについて実施した。

調査区No.1 調査期間 1987年6月1日～同6月3日

当調査区では、遺構、遺物ともに検出されなかったため、土層の堆積状況について若干の説明を加えておく。

層序は、基本的には8層に分けることが出来る。ほぼ水平堆積を示すが、第4層以下は若干東から西と北から南への傾斜が認められる。現地表面は、TP+6.747mで、機械掘削によって盛土を排除し、第2層以下を人力掘削によって調査した。第2層は、旧耕土の近現代層で、約30～40cmの厚さで堆積している。これは現在の府営住宅が建つ以前の地表面であり、畑の耕作土である



第3図 調査区No.1 北壁土層断面図

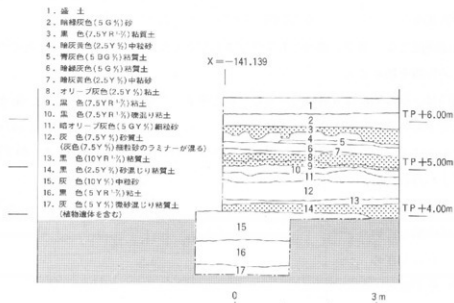
う。第3層の赤灰色粘質土は、約30～50cmの厚さで堆積している。これは府営住宅第1次調査の平安～鎌倉時代層に対応すると考えられる。第4層の黄灰色砂層、第5層の青灰色粘質シルト層は、河川による堆積層で、第4層は約30～40cm、第5層は約20cmの厚さで堆積している。府営住宅第1次調査で河川を検出した、古墳～奈良時代層に対応すると考えられる。第6層以下の黒色粘土、青灰色粘質シルトは、河内湾による堆積層で、弥生時代以前の層である。最下層の黒色粘土を、今回の調査では地山と考え調査対象外とした。

調査区No.2

調査期間 1987年11月7日～同11月28日

1. 基本層序

基本的には11層に分けることができる。現地表面は、TP+7.9mで、機械掘削により盛土を排除し第2層以下の層を人力掘削によって調査した。第2層は、旧耕土の近現代層である。これを除去した第4層では、この層をベースにした鎌倉時代の鋤溝を検出した。この面を第1遺構面とした。これを除去した第5層では、平安時代と考えられる鋤溝、溝、ピットを検出した。この面を第2遺構面とした。第6層では、奈良時代のものと考えられる溝を検出した。この面を第3遺構面とした。また第8層からは足跡遺構を検出した。この層を第4遺構面とした。第11層以下は、今回の調査では地山と考え調査対象外とした。



第4図 調査区No.2 東壁土層断面図

2. 遺構・遺物

(第1遺構面)

第4層では、東西方向に走る溝を検出した。幅20～30cm、深さ5cm。溝の深さを考えると鋤溝（耕作痕）と考えられる。遺構の年代は、遺物の出土が見られず特定はできないが、府営住宅第1次調査の鎌倉時代遺構面と同一面と考えられる。

(第2遺構面)

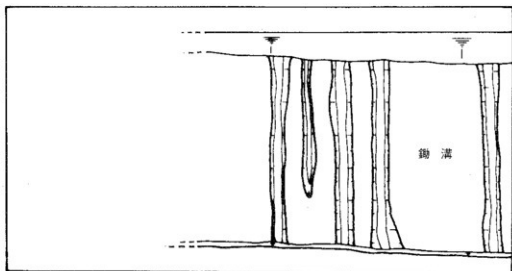
第5層で調査区北半に溝、ピットを、南半には、東西方向と南北方向に走る鋤溝を検出した。遺物は、土師器、須恵器、瓦器碗の小片がそれぞれ数点出土した。遺構の年代は平安時代後期と考えられる。

(第3遺構面)

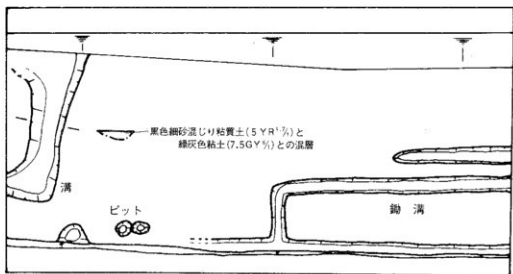
第6層において北西から南西に延びる溝を検出した。北東へは第2遺構面の溝によって切られており、南西へは調査地外に延びているものと思われる。遺構の年代は府営住宅第1次調査の奈良時代遺構面と同一面と考えられる。

(第4遺構面)

第8層をベースに人間の足跡を検出した。足跡の長さは20cm前後で残存状態はあまりよくなかった。遺構の年代は遺物が出土せず特定はできないが、古墳時代と思われる。

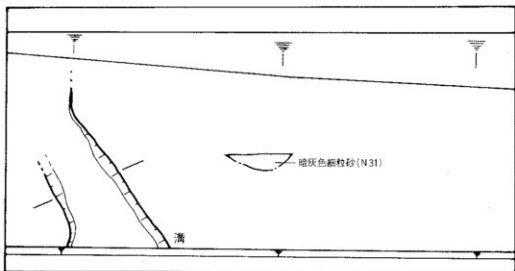


第5図-1 第1遺構面平面図

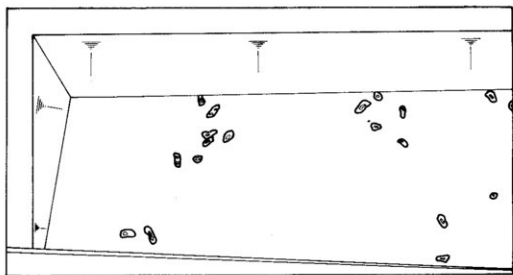


第5図-2 第2遺構面平面図





第5圖-3 第3遺構面平面圖



第5圖-4 第4遺構面平面圖(足跡群)



第4節 ま と め

今回の調査で、調査区No.1は北新町遺跡の北に、又No.2は東に位置しており、その調査区間の距離は約150mと、かなり離れたものであった。府営住宅調査時に検出した各時代の遺構面と対応する層を確認することは出来たものの、調査面積が狭小であったため、No.1では残念ながら、遺構・遺物は検出されなかった。しかしNo.2では古墳時代から鎌倉時代までの遺構面4面を検出することが出来、少量ながら遺物の出土もあった。ただ遺構の年代、性格等に若干不明瞭な点を残したのも確かである。今後この地域での調査例が増えれば、以上のような問題点を解消し、北新町遺跡全体の性格、範囲も明らかにできるであろう。

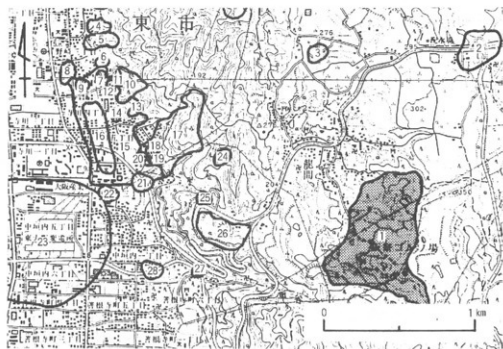
註

- (1) 田代克巳、辻木武 『大東市北新町遺跡 第1次発掘調査概要報告書』大東市北新町遺跡調査会 (1986)
- (2) 辻木武 『雁屋遺跡発掘調査概要』 大阪府教育委員会 (1987)
- (3) 1959年7月～8月にかけて実施された関西電力東大阪変電所工事に伴う調査で発見された。その後、1987年の大阪産業大学校舎新築工事に伴う調査では、古墳時代前期の集落跡が検出されている。
- (4) 城ヶ谷遺跡は、1988年の調査で、横穴式石室を主体部とする古墳が2基検出された他、中世の遺構も検出している。
三宅正浩、黒田淳他『寺川、北条遺跡発掘調査報告書』 大東市教育委員会 (1987)
黒田淳 『宮谷古墳群発掘調査報告書Ⅰ』 大東市教育委員会 (1988)
『城ヶ谷遺跡現地説明会資料』 大東市教育委員会 (1988)
- (5) (1)に同じ

第2章 石切場跡の調査

第1節 調査に至る経過

石切場跡は、大阪府大東市竜間地内に所在し、元和6年(1620年)に始まる大阪城修築時からの石材の切り出し地として知られている遺跡である。1985年、株式会社樋口組から面積約264,000㎡を対象とする、既設のゴルフ場改修工事の計画が出されたが、当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれていなかったため、まず分布調査及び試掘調査を実施することになった。試掘調査は約1m角のトレンチを241ヶ所入れた。矢跡の残る石が存在することや焼土坑などの遺構などが検出され、発掘調査を実施することになった。



1. 石切場跡
2. 竜間遺跡
3. 竜間ハンザカ遺跡
4. 福蓮寺古墳
5. 福蓮寺遺跡
6. 峯垣内古墳
7. 市寺川配水場古墳
8. メノコ遺跡
9. 瓦堂遺跡
10. 堂山古墳群
11. 堂山上遺跡
12. 堂山下遺跡
13. 六地藏古墳
14. 十林寺古墳
15. 寺川遺跡
16. 寺川古墳群
17. 大谷古墳群
18. 城の越上の段古墳
19. 大谷神社古墳
20. 城の越古墳
21. 鍋田川遺跡
22. 元粉遺跡
21. 中垣内遺跡
24. 太鼓山遺跡
25. セツ廻り古墳
26. 国見高地性遺跡
27. 大阪城残石
28. 若宮遺跡

第6図 周辺の遺跡分布図

第2節 遺跡の位置と環境

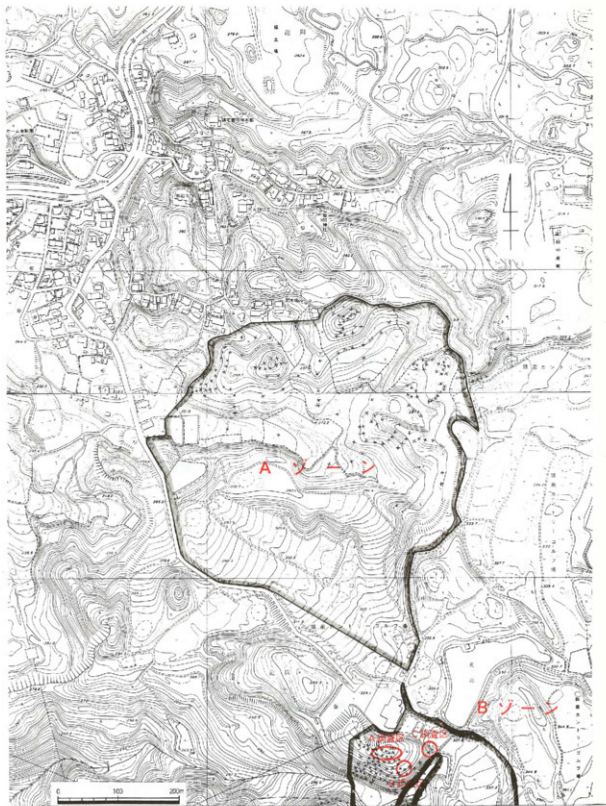
石切場跡の存在する竜間は、生駒山地が徐々に高度を下げ、飯盛山系を分かち標高200～350mの緩傾地に位置する。谷あいの集落と水田を除きほとんどが山林地域である。当地域における人間の活動の歴史は古く、今のところ弥生時代にまで遡ることができる。国見高地性遺跡では、高杯、竜間遺跡、竜間ハンサカ遺跡からサヌカイト製石小刀、磨製石剣が出土している。いずれも採集遺物で、遺構に伴ったものではないが、時期的には、弥生中期以降と考えられる¹¹⁾。古墳時代以降の様相は明らかではないが、現在のような集落が形成され始めるのは、村の中にある一石六地蔵に「永禄十年(1567)」の銘が刻まれており、中世以降のようである¹²⁾。戦国期になると北方の飯盛山には、三好長慶の居城となる飯盛山城が築かれている。また、この地域は、古来より、暗峠、十三峠、竜田越え、清滝峠と並び、河内と大和を結ぶ重要な道筋であったと考えられ、竜間越えとも中垣内越えとも呼ばれている¹³⁾。近世以降になると、この地域一帯で石材が切り出されていたらしく、大阪城修築の際工事を請け負った諸藩の刻印の入った石が残っている¹⁴⁾。石材の切り出しは、近年まで行なわれたようである。

第3節 調査の成果

調査は、Bゾーンの内3カ所で行い、それぞれA調査区、B調査区、C調査区とした。

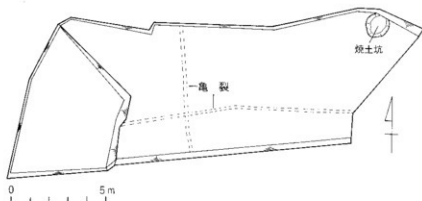
A調査区 調査期間 1987年5月18日～同5月20日

標高約348mの頂上付近約121㎡を調査した。約10～20cmの黒灰色の表土を除去すると赤褐色及び黄褐色土が表われ、場所によって異なるが、約60cm～1mの堆積がみられる。さらに、それを除去すると、黄灰色を呈する砂粒、風化した花崗岩を含む基盤層が表われ、今回の調査で地山と考えた。表土を除去した時点で焼土坑を検出している。埋土は灰を含む褐色土で、土坑壁も熱を受けて変色していた。平面120×120cm、深さ10cmで遺物は出土しておらず、時期を限定することはできないが、土坑というよりは、むしろ焚火の痕跡であると考えられる。地山面で、調査区を縦横に走る亀裂がみられた。一本は、ほぼ東西方向に、もう一本は、南北方向にそれぞれ走り、調査区の中央付近で直交する形になっている。地震などによる地殻の変動作用によって形成



第7図 試掘箇所及び調査区位置図

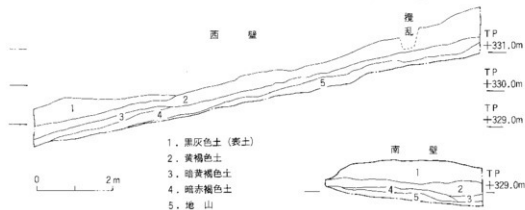
されたものと考えられる。ちなみに、当地域は、大阪を南北に走る生物活断層上にあり、断層の活動と何らかの関連があるかも知れない。



第8図 A調査区平面図

B調査区 調査期間 1987年7月21日～7月31日

標高約330mの南向きの傾斜地約114㎡を調査した。A調査区と同様、層位は、表土(黒灰色土)、黄褐色～赤褐色系の土、地山、の順で堆積している。表土及び黄褐色～赤褐色土を除去した地山面で、不定形の土坑を検出している。調査全体を通して、遺物は全く出土しておらず、土坑の時期、性格については不明である。



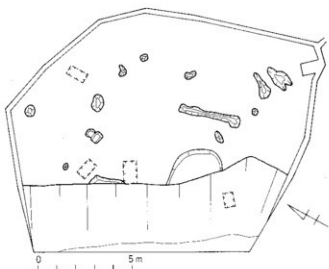
第9図 B調査区 西壁及び南壁土層断面図

C調査区 調査期間 1987年9月16日～9月30日

標高約330mにある露岩を中心に約225㎡を調査した。露岩部分は高さ約5.8m、広さは約9m×9mの規模で存在する。露岩上部の土層の堆積状況は、A調査区、B調査区とは異なり、約7層に分層される。第1～第3層は、赤褐色の腐植物を含む表土

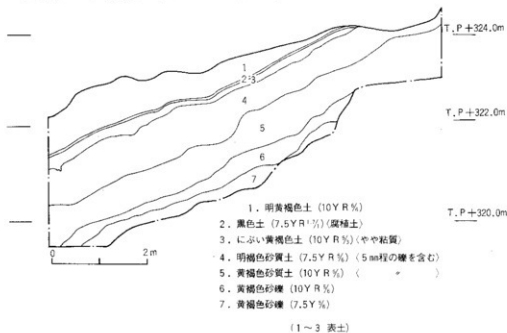
で、第4、第5層は砂質土、第6、第7層は砂礫土、そして第7層直下は、花崗岩の風化が見られる基盤層で地山である。

露岩は、ほとんどが、割られる直前の花崗岩の巨石であり、矢穴を残しているものもある。矢穴の形態は、2.5 ×



第10図 B調査区平面図

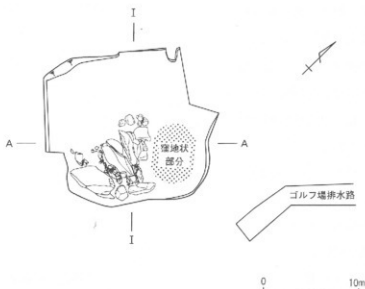
6.0cmの長方形で、矢穴と矢穴の間隔は約10cmである。露岩前には約4.5×6.5m程の窪地状部分があり、石材の剥片が30cm程の層を形成していることから、露岩から切り出した石に荒加工を加える作業場と考えられる。周辺には、加工過程で廃棄されたと思われる、割石や調整の施された石が散在しているが、風化が激しく、矢穴を確認することはできなかった。また、石切場の作業年代であるが、遺物は全く出土していないため、残念ながら、明確にすることはできない。



第11図 C調査区西壁土層断面図

第4節 まとめ

残念ながら、今回の調査では、遺物は全く出土せず、また、遺構も性格の不明な土坑を検出したのみで、石切場の操業年代を決定づける様な事実を得ることはできなかった。また、当遺跡周辺には、大

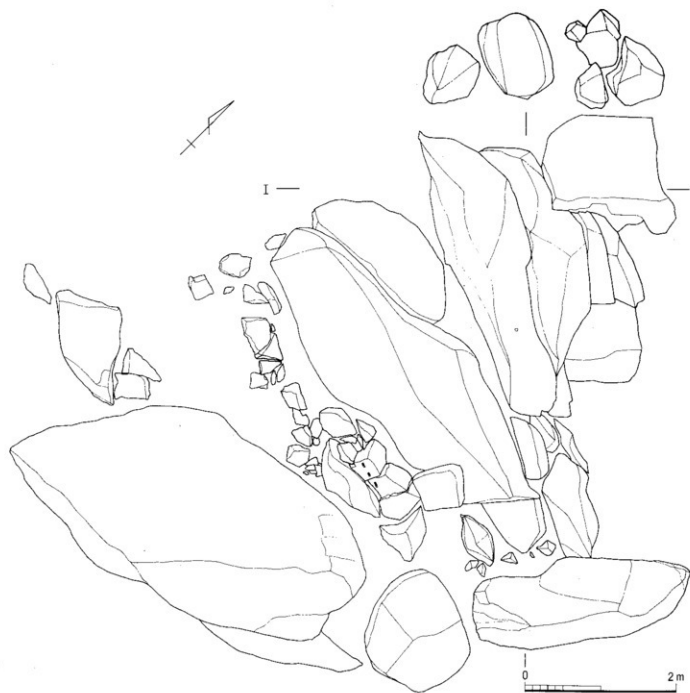


第12図 C調査区平面図

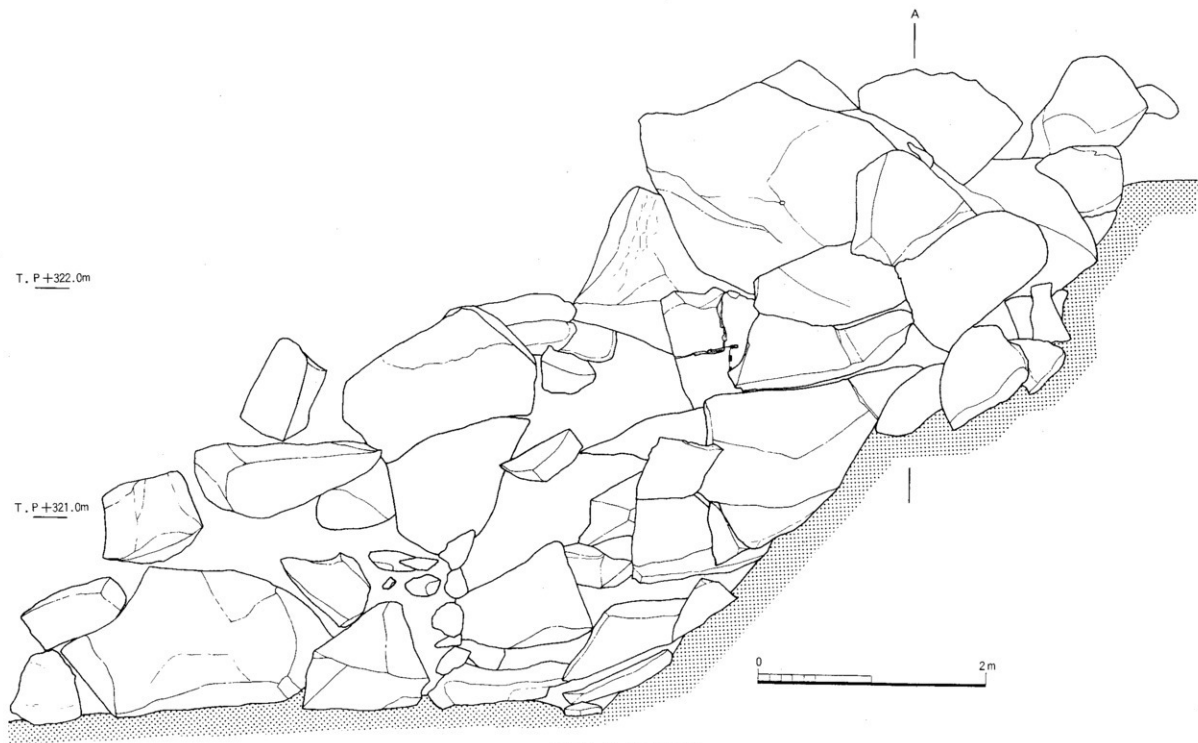
阪城修築に關係する刻印石も多数遺存するが、それらとの關係については、今回満足⁽⁵⁾のいく調査ではなかった。当地域では、この他にも、弥生中期の土器が採集されている国見高地性遺跡、磨製石剣が採集されている竜間ハンサカ遺跡、弥生の遺物散布地である竜間遺跡があるが、遺跡の実態は、必ずしも明確にはされていない。しかも、当地域においては、ここ数年来、開発の波が押し寄せ、各種の開発行為によって環境が破壊されているのが現状である。この様な状況の中、早急に分布調査を行い、各遺跡の実状を把握することが責務であると考えている。

註

- (1) 東宏 「三、弥生時代」『大東市史』 大東市教育委員会 (1973)
- (2) 川村和史 「中垣内越えに行く」『まんだ』第6号 地域文化誌まんだ編集部 (1979)
- (3) (2)に同じ
- 和田萃 「河内の古道」『環境文化』第51号 (1981) 財団法人環境文化研究所
- (4) 現在、阪奈道路下り線沿いの東大阪市との境界近くにある巨石がそうで、大阪城残石、残念石などと呼ばれており、「㊦、㊧、㊨、㊩」といった刻印がなされている。
- (5) 当遺跡の他に、国見高地性遺跡でも、刻印の入った石が確認されている。



第13图 露岩平面图



第14圖 露岩立面圖

昭和62年度

歴史民俗資料館事業概要

文化財普及啓発事業

(1) 講座

- ①「しめなわ教室」
- | | | |
|-------------|-------|--------------|
| 技術指導 | 橋本 実 | 文化財保護委員会会長 |
| | 辻本 義雄 | |
| | 森田 実蔵 | 文化財保護推進委員会会長 |
| | 今村 安和 | 文化財保護委員会委員 |
| | 中島 義一 | 文化財保護推進委員会 |
| 昭和62年12月20日 | 場所 | 総合文化センター |
- ②「土器の野焼を楽しもう」
- | | | |
|------------|-------|-------------------|
| 技術指導 | 三好 孝一 | 大阪府
文化財センター技師 |
| | 今村 安和 | 文化財保護委員会委員 |
| | 李 日娘 | 大阪府
埋蔵文化財発掘調査員 |
| 昭和63年3月13日 | 場所 | 総合文化センター |
| 昭和63年3月20日 | 場所 | 中垣内浜公園 |
- ③「野崎参りの歴史」
- | | | |
|------------|-------|------------|
| 講師 | 今村 安和 | 文化財保護委員会委員 |
| 昭和63年3月16日 | 場所 | 公民館 (視聴覚室) |
- ④「飯盛城の歴史」
- | | | |
|------------|------|------------|
| 講師 | 山口 博 | 市史編纂委員 |
| 昭和63年3月23日 | 場所 | 公民館 (視聴覚室) |

- ⑤「埴輪の特色」
 講師 河内 一浩 和歌山県
 文化財センター技師
 昭和63年3月24日
 場所 公民館 (視聴覚室)
- ⑥「能とうたいについて」
 講師 橋本 実 文化財保護委員会会長
 昭和63年3月29日
 場所 公民館 (視聴覚室)

(2) 発掘調査現場説明会

- ① 北条遺跡Ⅱ 大東市北条6丁目2318
 昭和62年6月21日 午後2時
- ② 北新町遺跡 大東市北新町地内
 昭和63年1月9日 午後2時

(3) 特別展示

- ① 石室の移設展示(屋外)
 宮谷古墳群出土 片袖横穴式石室
 場所 総合文化センター
- ② 錦絵及び瓦版展
 文化祭 大東市文化財保護推進会主催 歴史民俗資料館共催
 場所 歴史民俗資料館展示室

(4) 新聞報道資料提供

- | | |
|---------|----------|
| ① 中垣内遺跡 | 大阪産業大学増築 |
| ② 北条遺跡 | 宅地開発 |
| ③ 宮谷古墳群 | 宅地開発 |
| ④ 北新町遺跡 | 府営住宅建替 |

(5) 報告書の刊行

- ① 寺川・北条遺跡発掘調査報告書
- ② 大東市北新町遺跡第一次発掘調査概要報告書
- ③ 宮谷古墳群調査報告書 I

(6) 遺跡分布調査

- ① 第1回 昭和62年5月2日 若宮 大阪城残石
- ② 第2回 昭和62年5月16日 北条、宮谷古墳群 城ヶ谷
- ③ 第3回 昭和62年5月31日 国見、七ツ回り 元粉 太鼓山

民俗文化財資料収集

寄贈者名(敬称略)	品名(点数)
吉川喜作	地輪・釜
矢野つね子	古文書・錦絵・古書籍
沢辺利治	菓子椀10人前・杯台・膳・花月杯・重箱
藤本武一	リヤカー・天秤ハカリ・水桶・唐箕・フコ 草取り器・手鉤・米刺し 他
堤	水車(2)・草取り器(3)
河村和夫	フコ 木綿の着物・唐箕・千石どおし・斗升
合川昭夫	膳20人前
西村藤三郎	紙巻タバコ
萩家大蔵	魚籠
平野幸太郎	ヘツツイ
森秀雄	ミノ(2)
滝口ミツオ	田舟 オケ 大八車の車輪
浜田功	箱火鉢
楽	鶏籠
山本正治	鋤簾・米刺し
深谷弘行	電話ボックス
	他

大東市埋蔵文化財周辺地域及び包蔵地届出一覧表

年	月	周辺地域届出	試掘	包蔵地届出	進達	伝達
62年	3月	1件	0件	0件	0件	2件
	4月	18	0	7	5	0
	5月	33	4	2	1	0
	6月	18	5	12	17	4
	7月	14	5	5	2	4
	8月	17	8	6	5	8
	9月	24	2	12	16	9
	10月	19	1	1	3	4
	11月	16	0	3	1	19
	12月	17	0	4	4	9
63年	1月	17	2	3	7	4
	2月	22	2	6	9	7
	3月	10	3	1	2	2
合 計		226	32	62	72	72

昭和62年度大東市内包蔵地立会調査一覧

番号	遺跡名	住所	面積	用途	備考
1	中垣内遺跡	中垣内7-701-1 702-1	449.09㎡	工場及び倉庫建設	遺物、遺構なし
2	中垣内遺跡	中垣内 2-561-2	111.75㎡	個人住宅建設	遺物、遺構なし
3	三箇遺跡	三箇 2-347-10 の一部	38.88㎡	個人住宅建設	遺物、遺構なし
4	三箇遺跡	三箇 2-347-2	34.02㎡	個人住宅建設	遺物、遺構なし
5	三箇遺跡	三箇 5-110の一部	34.78㎡	個人住宅建設	遺物、遺構なし
6	三箇遺跡	”	46.17㎡	個人住宅建設	遺物、遺構なし
7	北新町遺跡	北新町 6-10	66.4m	ガス管入替工事	
8	北新町遺跡	学園町 210	131.30㎡	四条駅小荷物 取扱所模様替	遺物、遺構なし
9	北新町遺跡	北楠の里町 170-5	68.78㎡	個人住宅建設	遺物、遺構なし
10	北新町遺跡	北新町	42.8m	ガス管入替工事	古墳時代
11	北新町遺跡	北楠の里町 181-1	40.50㎡	店舗付住宅建設	
12	北条西遺跡	北条 6-1433-5	46.90㎡	個人住宅建設	遺物、遺構なし
13	北条西遺跡	北条 6-1433-27	47.30㎡	個人住宅建設	遺物、遺構なし
14	北条西遺跡	北条 6-1433-24	38.88㎡	個人住宅建設	遺物、遺構なし
15	寺川古墳群	寺川 2-1116-2	27.54㎡	倉庫付事務所建設	土器
16	野崎城跡	野崎 2-583	21.72㎡	慈眼寺休憩所建設	遺物、遺構なし
17	野崎城跡	野崎 2-452-1	63.99㎡	個人住宅建設	遺物、遺構なし
18	寺川遺跡	寺川 4-231-1	296.60㎡	倉庫建設	土器
19	灰塚堂田	灰塚 5-357-2	103.25㎡	個人住宅建設	遺物、遺構なし
20	御領遺跡	三箇 2-20-3	59.06㎡	倉庫建設	遺物、遺構なし
21	灰塚古墳	灰塚 5-422-1	200.49㎡	共同住宅建設	遺物、遺構なし

昭和62年度大東市内包蔵地発掘調査一覧

番号	遺跡名	住所	面積	用途	調査期間	備考
1	中垣内遺跡	中垣内 6-152-17	94.15㎡	個人住宅建設	62.5.18	遺物、遺構なし
2	〃	中垣内 4-1069-1	1000㎡	大学校舎増築工事	62.6.23 ～63.1.31	古墳時代前期・住居 建物跡布留式土器
3	〃	平野屋 1-5-8	474.40㎡	事務所建設		遺物、遺構なし
4	〃	中垣内 5-3-1	55㎡	機器基礎打替 掘削工事	62.10.12 ～11.18	遺構なし、遺物弥生 土器片
5	北新町遺跡	北新町16-21	123.15㎡	水道工事	62.6.15 ～6.18	遺物、遺構なし
6	〃	北楠の里170-9	189.1㎡	個人住宅建設		遺物、遺構なし
7	〃	北新町地内	1ヶ所	公共下水道管 築造	62.6.1 ～63.6.30	遺物、遺構なし
8	〃	北新町地内	2ヶ所	公共下水道管 築造	62.12.1 ～12.31	人の足跡・奈良時代
9	〃	北新町 8-11	3558㎡	府営住宅建設	62.10 ～63.5.31	弥生・古墳・奈良・鎌倉
10	水野遺跡	大東町10	493.36㎡	共同住宅建設	62.10.22	遺物、遺構なし
11	御領遺跡	大東町21-1	1570.90㎡	倉庫建設	62.9.18	須恵器・瓦器片
12	宮谷古墳群	北条 6-2227	96.31㎡	個人住宅建設	62.7.20 ～12.20	古墳・弥生、土器片
13	〃	北条 6-1251	467㎡	河川の擁壁築 造外	62.10.7 ～12.31	須恵器・弥生・石器 土器片
14	〃	北条 6-2232	900㎡	宅地造成工事	62.9.16 ～63.3.31	片袖横穴式石室 須恵器・埴輪・金環・土器
15	三箇遺跡	三箇 3-28	96.91㎡	個人住宅建設	62.6.11	遺物、遺構なし
16	〃	三箇 1丁目	9ヶ所	公共下水道管 埋設工事	62.12.7 ～63.3.31	お椀の片・中世の磁器片 中世の井戸由物
17	北条遺跡	北条 6-2318-1	800㎡	宅地造成工事	62.5.25 ～12.31	古墳・瓦器・須恵器 火葬墓・工器・合口甕
18	石切場跡	龍間229-1	267㎡	ゴルフ場拡張 工事	62.7.20 ～12.31	残石
19	城ヶ谷遺跡	北条 4-1817	2440㎡	校舎建設	63.1.7 ～3.31	弥生・須恵器・碧玉製管玉 鉄刀・埴輪・縄文式土器
20	寺川遺跡	寺川 5-554-2	62.40㎡	個人専用住宅		遺物、遺構なし
21	〃	寺川 5-554-10	61.00㎡	個人専用住宅		遺物、遺構なし

受 贈 図 書 一 覧

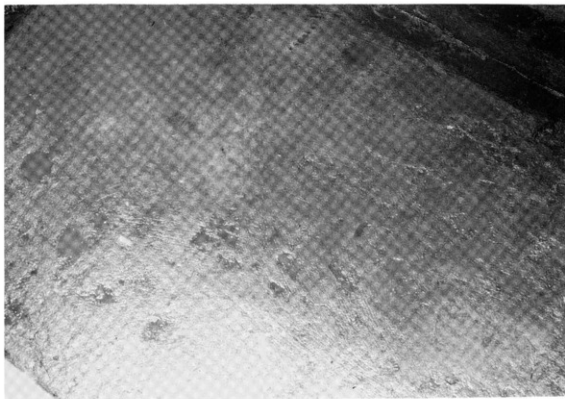
書 名	寄贈者名(団体名)	書 名	寄贈者名(団体名)
池田市史料編⑦立教 舎心学関係資料	池田市史編纂委員会	埋蔵文化財発掘調査概 報	柏原市歴史資料館
二ノ院遺跡発掘調査報 告	能勢町教育委員会	文化財研究調査冊子	寝屋川市教育委員会
九宝寺遺跡	(財)東大阪市文化財 協会	柏原市文化財調査概報 1986-I, II, III	柏原市教育委員会
河内長野市文化財調査 報告書第11輯	河内長野市教育委員会	川嶋出入二付諸事覚書	寝屋川市教育委員会
協会ニュースVol.2 No.2 No.3	(財)東大阪市文化財 協会	豊中市埋蔵文化財発掘 調査概要 1986年版	豊中市教育委員会
三日市遺跡調査報告書	河内長野市教育委員会	摂津豊中大塚古墳	豊中市教育委員会
高槻の史跡	高槻市教育委員会	とよなか探訪一ふらり 史跡たずねて	豊中市教育委員会
発掘20年のあゆみ	東大阪市立郷土博物館	『高石市史』第4巻資料 編Ⅲ	高石市教育委員会
「大阪府史」第6巻	大阪府立中之島図書館	阪南町埋蔵文化財報告 IV阪南町埋蔵文化財発 掘調査概要	阪南町教育委員会
東大阪市埋蔵文化財包 藏地調査概要28	東大阪市教育委員会	調査報告書	能勢町教育委員会
府中遺跡群発掘調査概 要Ⅶ	和泉市教育委員会	昭和61年度埋蔵文化財 緊急発掘概報	吹田市教育委員会
和泉市春木・久井地区 埋蔵文化財分布調査概要	和泉市教育委員会	吹田市文化財ニュースNo.8	吹田市教育委員会
高槻市文化財調査概要 「馬上郡発掘発掘調査 概要.11」	高槻市教育委員会	松原市史紀要1号	松原市史編纂室
泉大津市埋蔵文化財発 掘調査概報5	泉大津市教育委員会	柏原市遺跡群発掘調査 概報 -芝山古墳群・大泉遺跡-1986-V	柏原市歴史資料館
「續」	堺市博物館	古市遺跡群 Ⅶ	羽曳野市教育委員会
泉北考古資料館だより No.26,27,28,29,30,31	泉北考古資料館	貝塚市埋蔵文化財調査 報告第13集	貝塚市教育委員会
全国遺跡地図	文化庁文化財保護部 記念物課	貝塚市埋蔵文化財調査 報告第14集	貝塚市教育委員会
東郷遺跡第21次埋蔵文 化財発掘調査概要	八尾市教育委員会	美原町文化財調査概要1 「大井遺跡発掘調査の記録」	美原町教育委員会
八尾市内遺跡昭和61年 度発掘調査報告書Ⅰ -恩智遺跡の調査-	八尾市教育委員会	美原町文化財調査概要1 「小寺遺跡発掘調査概要」	美原町教育委員会
八尾市内遺跡昭和61年 度発掘調査報告書Ⅱ	八尾市教育委員会	昭和61年度発掘調査概 報Ⅰ・Ⅱ	茨木市教育委員会
八尾市文化財調査報告 13,14,15	八尾市教育委員会	八尾市内遺跡昭和61年 度発掘調査報告書Ⅱ	八尾市教育委員会
八尾市文化財記要2	八尾市教育委員会	美原町史第二巻一史料 編Ⅰ	美原町長
文化財の虫害と保存対 策	文化財虫害研究所	西の口遺跡第一次発掘 調査概要	(財)東大阪市文化財 協会
		若江遺跡第25次発掘調 査報告	(財)東大阪市文化財 協会

書名	寄贈者名(団体名)	書名	寄贈者名(団体名)
飯之山地車建築調査報告書	泉大津市教育委員会	小阪合遺跡(57年第1次)	(財)八尾市文化財調査研究会
東門寺跡発掘調査概要1	熊取町教育委員会	小阪合遺跡(58年第1次)	(財)八尾市文化財調査研究会
熊取町遺跡群発掘調査報告書	熊取町教育委員会	旧帝国製糸八尾工場の明治建築	(財)八尾市文化財調査研究会
昭和61年度生駒市文化財調査報告書	生駒市教育委員会	古市古墳群と河内王朝	羽曳野市教育委員会
泉佐野埋蔵文化財発掘調査概要Ⅶ	泉佐野市教育委員会	壱藏文化財分布調査報告書	熊取町教育委員会
壱波羅密寺	泉佐野市教育委員会	難波宮址の研究	(財)大阪市文化財協会
高井田遺跡Ⅱ1986Ⅵ	柏原市歴史民俗資料館	特別史跡、大阪城跡Ⅰ	(財)大阪市文化財協会
貝塚寺内町	貝塚市教育委員会	特別史跡、大阪城跡Ⅱ	(財)大阪市文化財協会
漁貝の考古学	堺市博物館	大塚西遺跡発掘調査概要	府教育委員会
館報	堺市博物館	大津道遺跡発掘調査概要	府教育委員会
大里遺跡発掘調査概要Ⅲ他32冊	府教育委員会	寛弘寺遺跡発掘調査概要	府教育委員会
泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅲ	泉南市教育委員会	泉南市史通史編	泉南市長
万葉の里太子町-文化財案内地図	太子町教育委員会	豊能町史本文編	豊能町長
阪南丘陵埋蔵文化財試掘調査報告書	(財)府埋蔵文化財協会	高宮八丁遺跡報告書	寝屋川市教育委員会
泉州の遺跡	(財)府埋蔵文化財協会	郵政考古紀要	大阪郵政考古学会
臨浜遺跡	(財)府埋蔵文化財協会	郵政考古	大阪郵政考古学会
石川流域遺跡群発掘調査報告Ⅱ	藤井寺市教育委員会	箕面の歴史年表	大阪郵政考古学会
藤井寺及びその周辺の古代寺院	藤井寺市教育委員会	田尻町史 上巻	田尻町長
藤井寺遺跡ガイドブックNo.2 No.3	藤井寺市教育委員会	田尻町史 下巻	田尻町長
藤井寺市文化財保護事業年報Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(昭和54・55・56年度)	藤井寺市教育委員会	田尻町史 史料編	田尻町長
高槻の文化財-絵はがき付きガイド	高槻市教育委員会	鬼虎川遺跡第12次発掘調査報告	(財)東大阪市文化財協会
海会寺遺跡発掘調査報告書	泉南市教育委員会	鬼虎川の木置遺物-第7次第4冊	(財)東大阪市文化財協会
摂津豊中大塚古墳	豊中市教育委員会	協会ニュースVol.3 No.1 No.2	(財)東大阪市文化財協会
野畑遺跡	豊中市教育委員会	藤井寺市史紀要第9集	藤井寺市教育委員会
玉手山遺跡 柏原市文化財概報1986-IX	柏原市歴史民俗資料館	藤井寺市史第6巻 史料編四中	藤井寺市長
池田市埋蔵文化財発掘調査概報1986年度	池田市教育委員会	野洲町史第1巻通史編1	野洲町長
		野洲町史第2巻通史編2	野洲町長
		若槻発掘調査報告書	大和郡山市教育委員会
		郡山城追門櫓、多聞櫓発掘調査概要報告書	大和郡山市教育委員会

書名	寄贈者名(団体名)	書名	寄贈者名(団体名)
平城京西一坊大路発掘調査概要報告書	大和郡山市教育委員会	堺市文化財調査報告20集	堺市教育委員会
和泉丘陵内遺跡発掘調査概要VI	和泉丘陵内遺跡調査会	堺市文化財調査報告21集	堺市教育委員会
河内鑄物師の歴史と技術	美原町教育委員会	堺市文化財調査報告22集	堺市教育委員会
地中レーダー探査報告	羽曳野市教育委員会	堺市文化財調査報告23集	堺市教育委員会
いま、問う、河内飛鳥	羽曳野市教育委員会	堺市文化財調査報告25集	堺市教育委員会
高槻市史料目録第6号	高槻市長	堺市文化財調査報告26集	堺市教育委員会
高槻市史料目録第7号	高槻市長	堺市文化財調査報告27集	堺市教育委員会
大園遺跡他発掘調査概報	高石市教育委員会	堺市文化財調査報告28集	堺市教育委員会
考古学にロマンを求めて —三木鎮一氏収集考古遺物展—	羽曳野市教育委員会	堺市文化財調査報告30集	堺市教育委員会
千早赤阪の民家	千早赤阪村教育委員会	堺市文化財調査報告31集	堺市教育委員会
有岡城跡・伊丹郷町I	大手前女子学園 有岡城跡調査委員会	堺市文化財調査報告35集	堺市教育委員会
奈良県立民俗博物館 だよりVol.IX No.2	奈良県立民俗博物館	堺市文化財調査報告36集	堺市教育委員会
淀の流れ	淀川資料館	4ヶ池遺跡(第93地区)	堺市教育委員会
葦火7号,10号 11号,12号	(財)大阪市文化財協会	堺市文化財調査報告書	堺市教育委員会
滋賀埋文ニュース 第85号,86,86,87,88,89 90,91,92,93,94,95,96	(財)滋賀県埋蔵文化財センター		



第 5 層 (青灰色粘質シルト層)



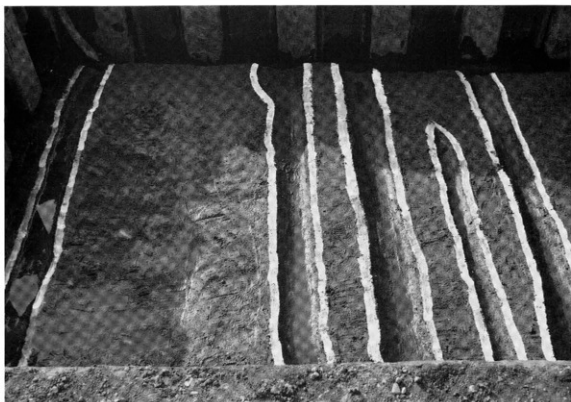
第 5 層 (青灰色粘質シルト層)



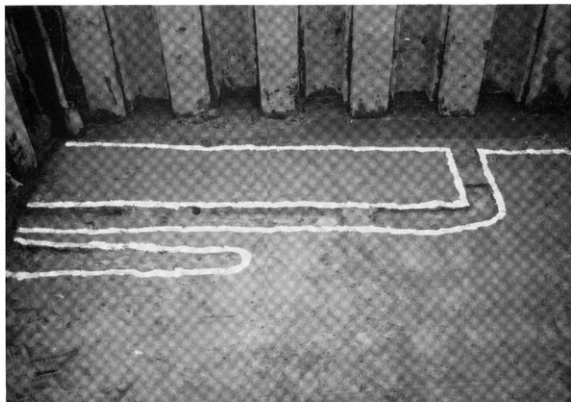
最終地山面 (黑色粘土層)



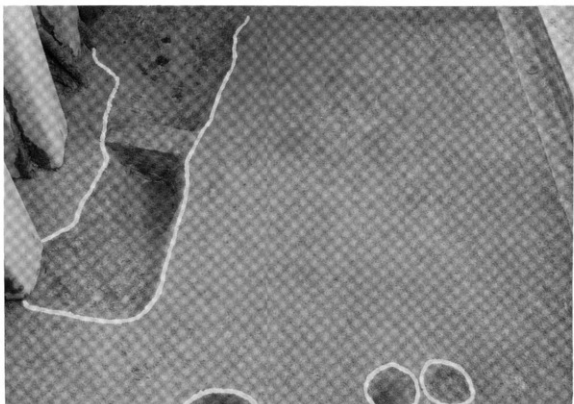
東壁断面



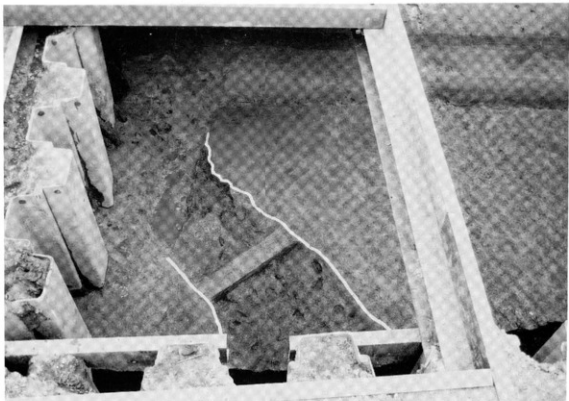
第 1 遺構面 (鋤溝)



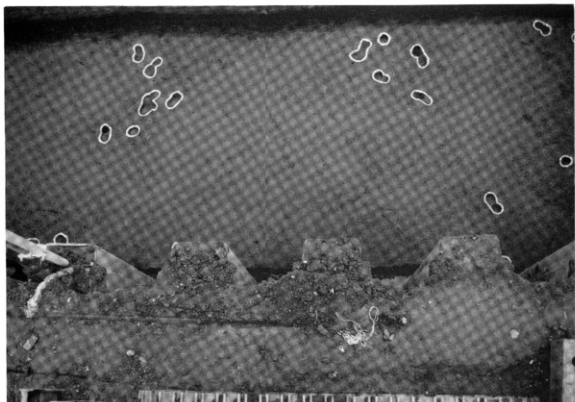
第 2 遺構面 (鋤溝)



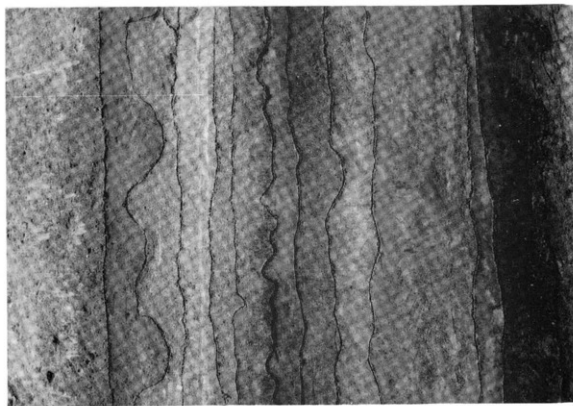
第 2 遺構面 (ピット・溝)



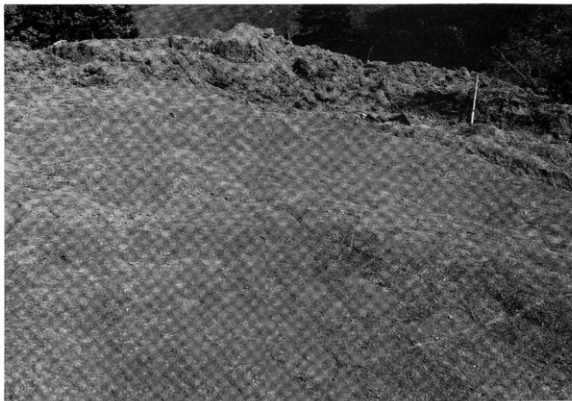
第 3 遺構面 (溝)



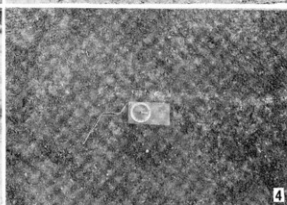
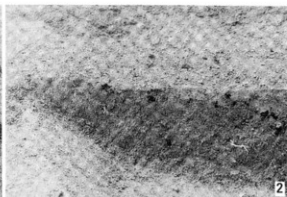
第 4 遺構面 (足跡群)



東壁断面

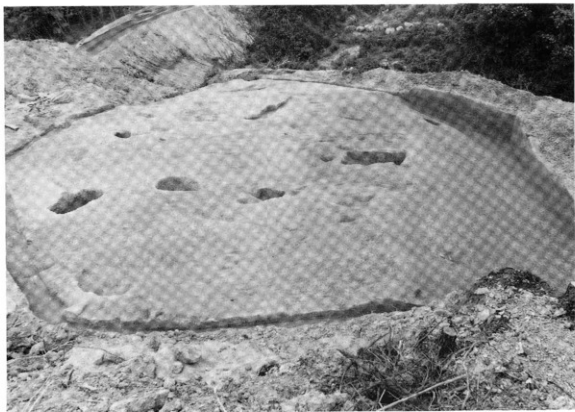


調査区全景

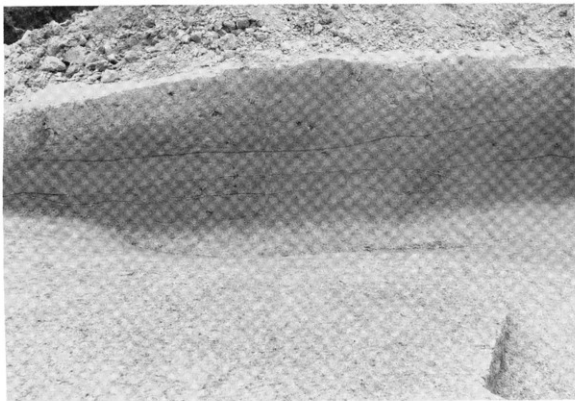


1・2 焼土坑

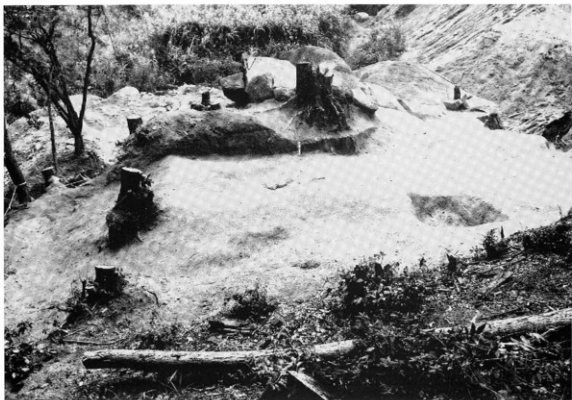
3・4 亀裂



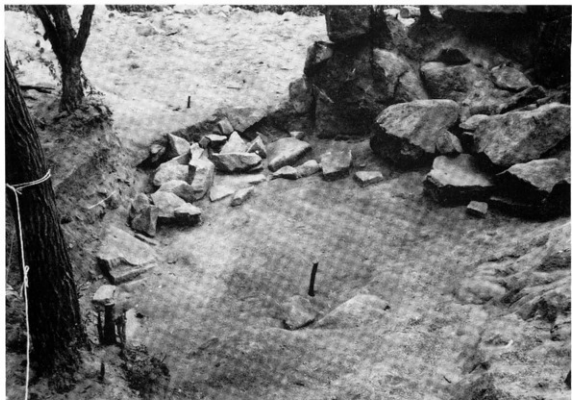
調査区全景



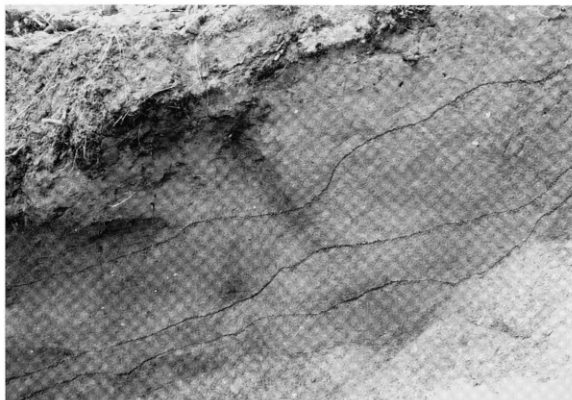
西壁断面



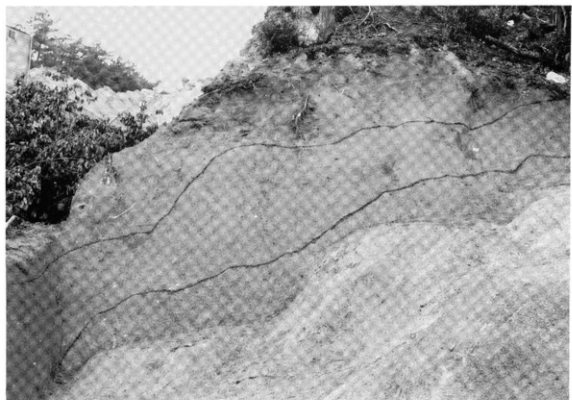
調査区上部



調査区下部



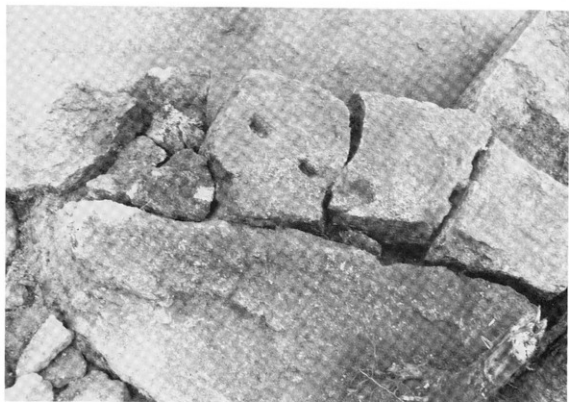
調査区上部西壁断面



調査区上部北壁断面



露岩矢穴跡



露岩矢穴跡

